

離島体験 掲載記事

(株)カルティベート

離島生活にわくわく

県体験事業で小学生出発

沖縄本島の子どもたちが
離島で民泊し、住民らと交
流する県の「離島体験学習
促進事業」の出発式が26
日、那覇市の城東小学校な
どであった。同事業は、本



離島体験学習促進事業の出発式で保護者らに見送られて、写真撮影する児童ら=26日、那覇市立城東小学校

島の子どもたちに離島の問
題解決に向けた意識を芽生
えさせ、地域の活性化も狙
った初の試み。

城東小学校で、県企画部
の小橋川健二地域・離島統
括監は「沖縄本島も離島の
一つ。沖縄県を理解するこ
うことは離島を理解する
ということ。離島の魅力を
理解してほしい」などとあ
いさつ。

児童を代表し、5年生の
向井大瑛君が「皆で楽しい
思い出をつくらう」と呼び
掛け、上運天空君は「周り
の人々への感謝の気持ちを
持って楽しんでいきます」と

話した。

今回、城東小学校から伊
是名島と伊江島へ、泊小学
校からは久米島と宮古島
に、壺屋小学校から西表島
へ、高学年の児童がそれぞ
れ派遣される。2泊3日の
日程で、離島の住民や小学
生との交流、体験学習、民
泊などを計画しており、全
額を公費で負担する。

県は今回、予算や日程の
都合から、那覇市内の小
生を対象にしたが、来年度
は規模を大幅に拡大し、約
20の離島に本島全域から約
700人を派遣する計画を
立てている。



生活体験へ出発

那覇の3小、県内離島へ

離島での生活体験を通して相互理解を深めてもらおうと城東小、泊小、壺屋小の5、6年生169人が26日、体験学習先となる各離島へ出発した。2泊3日の日程。

県が行う「離島体験学習促進事業」で宮古島や西表島、久米島など離島から力で自然体験活動などを行う。

城東小(兼城賢悟校長)で同日朝、県企画部の小橋川健二地域離島統括監や兼城校長、父母らが参加して出発式が行われた。写真。

伊江島に派遣される29人を代表して上運天空君が「お世話になる離島の方たちの感謝の気持ちを忘れず、楽しみながらいろんなことを学びたい」と力強くあいさつした。同小からは、ほかにも伊豆名島へ34人が派遣される。

泊小38人が宮古学ぶ

— 離島体験学習促進 —

市博物館、ミニ学芸員案内

沖繩本島の子どもたちが離島の持つ魅力を学び、関心を高める2010年度離島体験学習(主催・県地域・離島課)が26日、宮古島を含む県内5つの離島ではじまった。28日までの2泊3日。宮古には那覇市立泊小



離島体験学習促進事業で宮古入りしミニ学芸員の案内で宮古の歴史などを学ぶ泊小の児童ら=26日、市総合博物館

学校5、6年生38人が来島し、初日は市総合博物館で歴史文化を学習・体験し、城辺公民館での交流会などを楽しんだ。県は沖繩21世紀ビジョンで離島地域住民負担について、「沖繩の心であるユイマール精神に基づき、県民全体で支え合う新たな仕組みを構築する」と位置づけている。ただ、沖繩本島在

住民の離島に対する関心が低い状況にある。

これを踏まえ、今回の事業では将来を担う児童生徒が離島の重要性、特殊性、魅力に対する認識を深めるとともに、交流を促進することで離島地域の活性化を図ることを目的とし、那覇市の城東、泊、重屋の3小学校を各離島に派遣した。博物館での学習・体験では、子ども博物館に参加している宮古の小学生9人がミニ学芸員を務め、宮古の歴史や民俗、自然について館内を案内しながら紹介した。城辺公民館ではレクリエーションやエイサー、クイチャーで互いが交流を深め合った。

泊小の児童は27日、民泊先で野菜収穫や肉用牛へのエサやりなどを体験したほか、海岸清掃や池間湿原での野鳥観察、八重干瀬センターでの高齢者交流に臨んだ。28日は体験工芸村で各種創作、宮古ソバづくりを体験し、午後には全日程を終えて帰途につく。

ミニ学芸員から歴史や民俗の説明を受けた=26日、市総合博物館

泊小の児童 38人

宮古の歴史・自然学ぶ

離島体験学習促進事業で



那覇市立泊小学校の5、6年生38人が26日、離島体験学習促進事業(主催・県地域・離島課)で宮古島市総合博物館を訪れ、島の歴史・民俗や自然を学んだ。

子ども博物館に参加している児童9人が「ミニ学芸員」になり、宮古の昔の葬式の様子や無土器文化、地勢や地質、生物相などを説明した。ミニ学芸員は東、狩俣、南、平良第一小学校の5年生。

泊小学校の松川脩一君(6年)は「泊小学校は来年創立30周年を迎える。生徒数953人のマンモス校」と学校の紹介をした後「自然が豊かな宮古島でいろいろと学んで帰りたい」とあいさつした。

一行は28日まで宮古に滞在し、民泊先で農業や酪農を体験。池間島で野鳥観察な

どの自然観察をした後、地元のお年寄りとの交流が予定されている。

離島で民泊 「宝物」発見

各地で思い出づくり

那覇の児童満喫

沖縄本島の子もたちが離島で民泊し、住民らと交流する県の「離島体験学習促進事業」が12月26日、伊是名、宮古などで行われた。2泊3日の日程。費用は全額、公費負担。離島を訪れた子どもたちは農業体験や住民との交流、民俗芸能にも触れるなど楽しい思い出をつくった。

伊是名で楽しく農業体験

【伊是名】島を訪れたのは那覇市立城東小学校の5年生34人。26日は少し波が高く船酔い心配されたが、島に着いた子どもたちは伊是名漁協の養殖場で海ぶどうの植え付け体験をやり、その後、島の収穫作業を体験し、その後はキビ刈り体験もした。JA伊是名支店の東江邦雄さんによるキビ刈りの道具の説明があった。



ナタを使い、意識を集中してキビ刈りをする城東小学校の児童たち=伊是名村字諸見区

27日は朝からトウガンやカボチャの収穫作業を体験し、その後はキビ刈り体験もした。JA伊是名支店の東江邦雄さんによるキビ刈りの道具の説明があった。はじめは、東江さんが横につき、子ども一人一人にキビ刈りを体験させたが、うまくナタやカマを使えるようになると、すすんでキビを刈ることもできた。永山里奈さんは「昨日からずっと楽しい。伊是名の子と仲良くなったのでうれしかった。キビ畑も見たことがなかったし、キビも甘くておいしい」と初めての体験をとても楽しんでいるようだった。

(末吉雅枝通信員)

自然学習体験する泊小学校の子どもたち=久米島ホテル館

ドキドキ 久米島の自然

【久米島】那覇市立泊小学校(長尾栄正校長)の5年生38人は料理、文化、自然学習、ホームビジット(家庭訪問)でキビ刈り体験などを行い、島の自然・文化、人との触れ合いを楽しんだ。

久米島ホテル館では佐藤文保館長、久米島ホテルの会佐藤直美さんらが同館側の川辺でネイチャーゲームを指導し、子どもたちがグループごとに発表を行った。子どもたちは「那覇では見られない生き物がいた」など、目を輝かせて発表した。

ホームビジットでオーハ島に郵便物を届けに行った岡本翼君、黒糖作りした川本浩輔君は初体験に感動した。

(比嘉正明通信員)



伊江の子と仲良く交流

【伊江】城東小学校の5年生28人が村を訪問、民泊を通して地元小学生や住民との交流体験を行った。一行は受け入れ先の家族の案内で島を巡り、歴史と平和について学んだ。

27日は伊江漁協観光部の協力を得て「海人(うみんちゅ)カレ」づくりを体験したほか、伊江小、西小学校の5年生16人と文化交流会をした。城東小学校の学校紹介の後、島の子どもたちによる歌三線や民俗芸能が紹介された。城東小の児童らは初めて目にする島の文化に興味深げに見入っていた。

その後、各グループに分かれてペットボトルを使ったロケットづくりに挑戦。村役場の新保礼人さんの指導の下、1時間ほどで完成させ、野球場で打ち上げた。80メートルを超える飛行を見せたロケットもあり、歓声がこだました。神村幸弥君は「工作が好きなので楽しみにしてきた。思ったより飛ぶうれしかった」と語った。

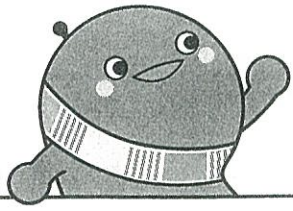


優しい宮古「また来たい」

【宮古島】島には泊小学校の5、6年生38人が滞在、市内の民家に泊まって農業体験や自然観察など楽しんだ。28日は、市平良の市体験工房でサンゴや貝を使ったストラップやそば作りを体験した。写真。羽賀万葉君(12)は「(民泊は)最初はちょっと緊張したけど、とても優しくしてもらった。手伝ったゴーヤーの受粉作業は難しかった」と話した。西原かのんさん(12)は「メロンの受粉作業や牛の飼育などを見学し「農家の人はとても大変だと思った」。沢岬愛海さん(12)は「宮古はとても優しい。また来たい」と笑顔で話した。



ペットボトルロケットで優勝した「スターズ」の児童たち=伊江村



りゆうPON!

初めてがいっぱい

離島生活体験したよ

那覇市立城東小学校5年2組(担任・玉里恵理菜先生)の児童28人は2010年12月26日から28日まで伊江島を訪ね、離島の暮らしを体験しました。



地元の漁師の指導で魚をさばく児童。初めての事も頑張りました
＝2010年12月27日、伊江村青少年旅行村(又吉康秀撮影)



伊江島の自然も満喫しました。ビーチで遊ぶ児童
＝12月27日、伊江村青少年旅行村

城東小28人 伊江島へ

県が進めるイベントの一つで、沖縄本島の小学生が離島の一人ひとりの交流を通して離島の魅力を知るのと同時に、悩みに目を向け、一緒に考えるきっかけにすることが目的です。城東小の子どもたちは、民泊など体験を楽しむだけではなく、中学を卒業すると島を出て一人で暮らす、離島の子どもの大変さも知りました。

魚をさばく

伊江島は修学旅行生らを普通の家に泊めて交流する民泊が盛んです。城東小の児童も民泊を体験し、伊江島のお父さんやお母さんと触れ合いました。

島の漁師からは魚のさばき方を習い、海人カレーを作りました。初挑戦の内藤壮太君(11)は「内臓がグロテスクでびっくりしたけどおいしい」と笑顔で語りました。

地元の子どもたちとの交流会では、ゲームや工作をするうちにすっかり仲良しに。民泊先



民泊先のお父さん、玉城長良さん(右)からアダンの葉の風車作りを習う児童＝12月28日、城山展望台

でもいろんなことを教えてもらいました。アダンの葉っぱでの風車作り、伊江島タッチューがゴリラの顔に見えること、搾りたての牛乳のおいしさ。

「那覇になくて伊江島にあるものがたくさんあった」。日高桃さん(11)は言いました。「初めてのことがいっぱい。もう少し残りたいくらい」と城倉野々花さん(10)も楽しくてたまらないうらやま。児童は伊江島の魅力を地図にまよめしました。

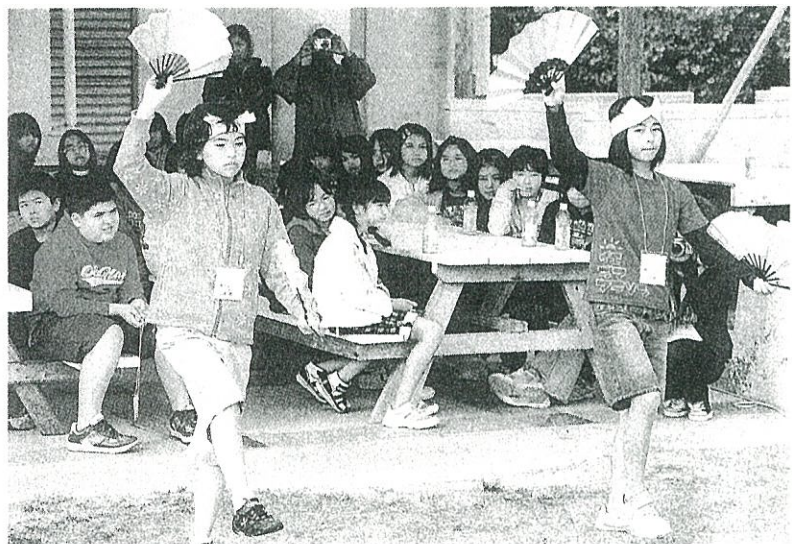
島を出る日?

島の人たちは離島の大変さについて話してくれました。島

またんいめんしより

明日帰るといふ日、児童たちは島のお父さん、お母さんにお礼の手紙を書くこと決めました。玉里先生は「こんな声が上がるといい」と目を細めました。

最終日、島のお父さんたちは「またんいめんしより(伊江島の方言で『またいらっしやい』)城東っ子」と書いた横断幕を掲げ、見送ってくれました。「島の人たちは優しくて温かい。また来たい」と志堅原佑太君(10)。3日間の経験で、みんなが伊江島を大好きになりました。成長しました。(与那覇裕子)



得意な舞踊などを披露し、すっかり打ち解けた交流会
＝12月27日、伊江村青少年旅行村

子どもワクワク 離島体験へ

【豊見城】県の沖縄離島体験交流促進事業の一環で豊見城市の座安小学校（佐久川俊英校長）の5年生4学級143人が1日、西表島と久米島に出発した。2泊3日の日程で、1学級に引率教師や看護師ら5人程度の大人が付き添い、漁業のほか自然・生態系観察、ハーリーなどを体験、交流する。



離島の体験・交流で西表島と久米島に派遣される座安小学校5年生＝豊見城市座安、同小

県事業 まず座安小143人

出発式で児童らは、県内のまだ見ぬ島に心を躍らせた。

座安小は2011年度最初の派遣校。出発式では西表島行きを代表して赤嶺輝君が「初めて飛行機に乗るため、眠れなかった人もいると思う。一人一人行動に責任を持ち、安全に過ごそう」と呼び掛けた。

久米島行きを代表した上原駿樹君は「今日の日を楽しみにしていた。久米島の自然やいいところを発見し、これからの勉強に役立たい」と話した。

佐久川校長は「交流と体験をキーワードに、仲良く賢く、たくましく頑張ってきてください」と激励した。

同事業は、将来を担う児童に離島との交流を通し、魅力や重要性を認識してもらうのが狙い。10年度の試験的事業を経て、11年度は希望があった県内8小学校の5年生約550人が県内の13離島を訪問し、地域の人々や自然と触れ合う。県が、国から3分の2の補助を受け11年度は約5200万円です業化。13年度まで実施する。児童の参加費は全額県が負担する。

友だちたくさんできるかな？

座安小児童らが西表入り

沖繩本島の小学5年生を県内の離島に派遣し、地域の人々や地元小学生との交流を図る、2011年度沖繩

遣され、この日石垣空港に同校の5年1組、3組の児童73人が到着した。西表島で農業体験や自然体験、地元小学生との交流会などを行う。

同事業は、離島の問題解決に向けた意識を

石垣空港に到着した座安小学校の児童たち
11日午前、同空港



広く共有し、本島と離島の交流促進で地域活性化を図ることが目的。今年度は規模を拡大し、本島の小学校8校(約560人)が12離島に派遣される。空港に到着した児童らは、バスで離島ターミナルへ移動。5年1組は西表島東部、同3組は西表島西部に2泊3日の日程で派遣された。児童らは各地域で暮らし体験や西表島の生物について学ぶほか、地域住民や地元小学生と交流を深める。

久米島の豊かな自然満喫

豊見城市立座安小学校 5年生72人が生物調査

【久米島】離島の特性や 体験交流促進事業」による魅力を本島の児童に知って 離島交流が1〜3日、久米もらおと、県の「沖繩離島 島町と竹富町の西表島であ



ホタル館で行われたネーチャーゲームで生き物探しをする児童ら
112日、久米島町大田の久米島ホタル館

ハーリー体験、地元児童と交流も

った。うち、豊見城市立座安小学校(佐久川俊英校長)5年生72人が久米島を訪れ、自然を学ぶ体験や伝統文化を学ぶハーリー体験、久米島小学校と美崎小学校児童との交流会も行われた。

2日午前、久米島ホタル館で行われたネーチャーゲームでは、ホタル館周辺の森、川、湿地に分かれて散策しながら、網を使って生き物を採集した。湿地の泥や流れの速い川の中で足を取られながらも、児童らは一生懸命調査を行った。同館の佐藤文保さんや久米島ホタルの会会員が調査に同行し、生き物の名前や生態について児童たちに指導しながら、一緒にゲームを楽しんだ。

座安小の山内星奈さん(5年)は「森の中で見つけたカタツムリが大きくて、色鮮やかなのにびっくりした」と話した。

(中島徹也通信員)

渡名喜の海 仲良く満喫

具志川小46人、地元と交流

渡名喜

県の離島体
験交流促進事

業で、うるま市の具志川小学
校5年1組と2組の総勢46人
が20〜22の3日間、渡名喜島
を訪れた。追い込み漁体験や
ナイトトレッキングでのヤシ
ガニ観察などに参加。児童ら
は初めての体験に心躍る日々
を堪能した。

東浜のビーチでは前日設置
されたばかりのターンの前
で渡名喜幼小中学校の子ども
たちと共に水泳教室の体験を

した。島の子どもは全校でも
25人。具志川小の46人の人数
に圧倒されたが「水上騎馬
戦」や「水上綱引き」を通じ
て楽しく交流した。

近年少子化が続く渡名喜
島。多くの子どもたちが海で
泳ぐ姿を見た年配の住民らは
「昔を思い出すね」と感動し
ていた。

最終日の交流会では島の
人々を交えての食事を開
催。名産の料理や「追い込み
漁」で自ら捕った新鮮な魚な



島の大自然を満喫した具志川小の児童ら＝渡名喜村

どをおいしく食べた。具志川
小学校の子どもたちは、3日
間でたくさん自然や地元の人
々と触れ合い、帰る時には、
真っ黒に日焼けをし「絶対
また来るね」と笑顔でフ
ェリーに乗り込み帰っていつ

(高橋和淑通信員)

八重山毎日新聞

THE YAEYAMA MAINICHI SHINBUN

6月2日 日本曜日
2011年(平成23年)

発行所
株式会社 八重山毎日新聞
〒907-0004 沖縄県石垣市宇登野城614

離島体験交流スタート

島本島から児童ら第1陣 西表 ガサミ漁など満喫

【西表】ガサミ漁の体験や島の子もたちの交流など多彩なプログラムを盛り込んだツアーが1日、竹富町西表島で始まり、豊見城市立座安小学校の5年生70人余りが参加している。本島の子もたちに離島への関心を高めてもらうことを目的とした県の沖縄離島体験交流促進事業によるツアー。同事業は2013年度までの3年間続き、中長期的には離島の活性化を図ることを視野に入れている。

母親が石垣市出身の高安麻衣さん(10)は、柔らかい川底に足を取

られ、泥だらけになりながらの体験に「転んだけど楽しかった。大きいのが捕れたらいい」と話していた。児童たちは2日、仕掛けにガサミがかかっているか確かめることにしている。

同事業は、離島の住民負担を県民全体で支えることをうたった「沖縄21世紀ビジョン」の具体化を目指すもの。本年度は11月までの5カ月間に本島の8校から小学5年生合

や久米島、本島周辺など13カ所。西表ツアーは東部と西部に分かれ、2泊3日を実施。東部では野生生物の学習や、パインなど農作物の収穫体験、仲間川の自然観察とカヌー体験、マリアアをテーマにした平和学習、西部ではガサミ漁体験や干立の集落散策、染め織体験、浦内川のカヌー体験、ハーリーの練習体験、宇多良炭鉱見学などが含まれている。



県の沖縄離島体験交流促進事業によるツアーで西表島を訪れ、ガサミ漁を体験する豊見城市の小学生たち。1日午後、西表西部の与那田川。

西部地区の参加者37人は1日午後、干立集落に入ったあと、近くを流れる与那田川周辺でガサミ漁を体験。児童たちは地元の下郷雄さん(33)の説明を聞いたあと、2人1組でカニかごにえさの魚をくわすけ、マングローブの中に仕掛け

しましま
通信
ネット



久米島ホテル館で久米島の自然・生態系を学ぶ座安小の子どもたち=久米島町

2校が離島体験交流

伊江島で馬と遊ぶ

伊江

那覇市立城北小学校 (當山しのぶ校長) の

5年生65人は6月29日から3日間、伊江島に滞在。民泊を通して地元の小学生や住民との交流体験を行った。離島体験交流促進事業の一環。

初日は伊江漁協観光部会による追い込み漁を阿良の浜で体験し、網にかかった大小色鮮やかな魚の群れに子どもたちは歓声を上げた。

2日目は伊江島ビーチサイドホースパークの協力で乗馬を体験。同パークの知念和幸代表が「伊江島の馬」について説明した後、児童らは餌をあげたり、話し掛けたりして馬と触れ合った。

その後、調教師の久野雅照さんの指導で、児童一人一人が馬にまたがり馬場の中を一周した。初めて馬と触れ合う児童らは緊張しながらも次第に打ち解け、「ハイ、ドー」と掛け声を出し、自然と馬に話し掛けた。

午後から村内の二つの小学校に場所を移し、同学年の児童と互いの地域や学校を紹介し、スポーツ交流で汗を流した。



楽しそうに乗馬を体験する城北小学校の児童たち=伊江村 東江前浜崎原のビーチサイドホースパーク

久米島の自然に浸る

座安小エビに歓声

久米島

豊見城市立 座安小学校

(佐久川俊英校長) 5年2組、4組の72人がこのほど、2泊3日の日程で久米島の自然文化を体験し、島の子どもたちと交流を深め、見聞を広めた。県離島体験交流促進事業の一環。一行は、ホームビジット体験やリバーウオーク、久米島町立美崎小(徳元哲博校長)、同久米島小(松元慶子校長)との交流、ハーリー体験などを楽しんだ。久米島ホテル館で行われたリバーウオークは、佐藤文保

館長、佐藤直美さん(久米島ホテルの会)の指導の下、ネーチャーゲームを行い、子どもたちは捕獲したテナガエビなどに歓声を上げながら川辺を散策した。

子どもたちはハーリーにも挑戦した。磯間漁港では磯間漁民組合の宮城正吉さんの手ほどきを受け、かいを懸命にこいだ。ネーチャーゲームで宇良拓也君(座安小)、仲井真救君(同小)は「エビが捕れて楽しかった」。ハーリー初体験の比嘉竜望君(同小)、前村萌子さん(同小)は「皆で力を合わせてこぎ、舟が進んだのでうれしかった」と満足そうに語った。

(比嘉正明通信員)

渡名喜つ子海上で熱戦 東浜で運動会

渡名喜

渡名喜村立渡名喜幼小中学校(玉那覇邦和校長)の水上運動会が3日、島のビーチ「東浜」で開催された。3歳児から中学生の子どもたち28人がこの日のために養ってきた泳力を存分に発揮した。子どもたちは遠泳などとともに水上玉入れや水上騎馬戦などで会場を沸かせ、保護者や地域住民から大きな声援が送られた。

児童・生徒数が年々減少していく中、途切

れることなく続いてきた伝統をつなげようと、地域住民らが率先して運営に協力する場面も数多く見られた。小学5年生の比嘉鈴音南さんは「島の伝統の一つである水上運動会に皆と参加できて楽しかった」と語った。

この日を楽しみに島に帰ってくる島出身者や観光客が参加した水中綱引きは最後に行われ、大いに盛り上がった。

(高橋和淑通信員)



爽やかな青空の下で水上騎馬戦をする子どもたち

|| 渡名喜村東浜

大北小児童、渡嘉敷楽しむ 稲刈り・カヌーなど体験

地元児童と交流も



カヌーに挑戦する児童ら＝渡嘉敷村

渡嘉敷

名護市の大北小学校(玉

城奎校長)の5年生27人が4日から2泊3日の日程で渡嘉敷村を訪れ、渡嘉敷小学校(亀川盛敏校長)の児童らとの交流や島の自然、文化を体験し

た。県の離島体験交流促進事業の一環。

入村式で座間味昌茂村長から歓迎を受けた一行は、渡嘉敷小学校で「美ら島とかしき太鼓」を体験。太鼓を通して交流を深めた。

2日は農家の當山清林さんの指導で稲刈りから脱穀、精米までの行程をこなし、海洋研修ではスノーパークフロートや大型カヌーできれいな海を満喫した。吉川嘉勝さんによる星座観望会や特攻艇秘匿壕などを見学する平和学習も行

った。
離村式で児童を代表して上間玲未さんは「とてもいい体験ができた。稲刈りは夢中になったし、戦争の話を聞いて島の歴史に触れることができ。みなさんに感謝したい」と礼を述べ、前里フイカさん

は「交流会でたくさんの方とできて良かった。きれいな海で色とりどりの魚が見られて感動した」と話した。
フェリーの岸壁には渡嘉敷小の児童らが見送りに駆けつけ、仲良くなった友達と別れを惜しんだ。(新垣聡通信員)

しましま+ プラス

離島の生活満喫

伊平屋で久茂地小児童

伊平屋

県の離島体験交流促進事業

業の一環で、那覇市立久茂地小学校5年生26人が6日から2泊3日の日程で、伊平屋島を訪れた。村内で自然に触れ、農業や郷土料理を体験した。児童らは到着後、村前泊区の畑へ移動。JA伊平屋支店の職員の指導の下、いも掘りを楽しんだ。掘りたての生のいもを「ポテトチップスの味がする」とおいしそうに食べる児童もいた。その後は各グループで、宿泊先の民家でキャンドル作りや漁船の清掃の手伝い、海で貝拾いなどをして

過ごした。

2日目は米崎海岸で釣りに挑戦した。昼食後、いへや愛ランドよねぎきの調理室でアガラス作りを体験。伊平屋元氣プロジェクト「チーム黒糖」が商品開発し、7月1日から販売している伊平屋島産黒糖使用「黒糖アガラスミックス」で児童らも簡単に作る事ができた。伊平屋小学校5、6年生と同校体育館で交流会も行った。ソフトドッジボールなどで汗を流した。久茂地小の児童は「いろいろな体験ができた。学んだこ

島を満喫した久茂地小学校5年1組の児童ら。伊平屋村ポルトターミナル



とをこれからの生活に生かしたい。また伊平屋に「来たい」と笑顔を見せ、離村する際には涙ぐむ児童もいた。

(國吉由美通信員)

県交流事業がスタート

池間島と 城辺地区 糸満南小88人が来島

沖縄本島の児童たちが離島で民泊し、地元児童や地域住民らと交流する県の2011年度沖縄離島体験交流促進事業が15日から、市城辺地区と池間島で始まった。糸満市の糸満南小学校から5年生計87人が来島し、17日まで2泊3日の日程で、オカガニ観察や潮干狩り、星空観察などを通して宮古の豊かな自然や歴史・文化に触れながら、地域の児童や高齢者との交流を楽しみ、離島の魅力に触れていく。

同事業は、児童に離島の魅力や特殊性への認識を深めることで観光など離島地域の活性化につなげるとともに、核家族化の進展で懸念される人間関係の希薄化を解消し、豊かな人間性や

社会性の形成につなげることを目的。宮古では2回目。今年度は、那覇市や豊見(前泊博美代表)が連携し、城市、うるま市など計8小学校の5年生19クラス554人が12離島を訪ねる。宮古は糸満南小学校から88人が来島している。城辺地区では昨年に続き、ぐすくべグリーンツーリズムさるかの会(野崎達男代表)が受け入れ。5年1組29人が福嶺地区、5年2組30人が友好地区を訪れた。池間では、今年度から池間・狩俣・伊良部での民泊事業を受け入れる宮古島観光協会(豊見山健児会長)とNPO法人いけま福祉支援センター(前泊博美代表)が連携し、5年3組29人を受け入れた。このうち池間では、正午過ぎに到着した児童たちが3、4人ずつ8グループに分かれて受け入れ先のお年寄りたちと昼食を楽しんだあと、入島式に出席。同協会の池間隆守専務が「2泊3日と短い、体に気を付けてながら存分に遊んで地元の人と仲良くなり、楽しい思い出をたくさん作ってほしい」と期待を寄せ、体験活動を支援する地元のボラ

ンティアグループ島立会の仲間末司会長が「池間から出ない、自分たちだけで海に行かない、夜は出歩かないこと。島の人と仲良くして一生の宝物を探してほしい」と呼びかけた。続いて「とにかく楽しみたい。受け入れ先は75歳から89歳の高い年齢で、高齢者を元気にし、地域を再生する事業と捉えている。子どもたちには地域の誇りをぶつけ合うこと。地域の良さを再認識してほしい。高齢者は元気をもらい、子どもは知恵や命の大切さなどを学んでほしい」と期待を寄せていた。



じゃんけん列車ゲームで交流を深める児童ら。池間離島振興総合センター

「命」テーマに島の生活体感

池間小中

糸満南小の児童と交流

離島体験交流促進事業で



池間島の子どもたちや住民たちと触れ合いながら糸満南小学校の児童たちは島の生活、歴史、文化を学んだ=15日、池間島離島振興総合センター

県の2011年度沖縄離島体験交流促進事業として糸満南小学校の5年生29人が15日、池間島での体験学習をスタートさせた。池間島離島振興総合センターでは入島式のほか、池間小学校の児童生徒との交流も行われ、両校がそれぞれの地区で自慢できることを紹介し合うなど子どもたちは笑顔の交流を楽しんだ。体験学習は17日まで行われ、きょう16日はかまど作り体験や、定置網漁、サンゴ礁イノー散策体験、シャコ貝移植放流などを予定している。

同事業は沖縄の離島に出掛けることの少ない沖縄本島の子どもたちを離島に行かせ、それぞれの文化、歴史、自然を体験させることが目的。今回は、糸満南小の児童は池間島と城辺に分かれて体験学習を行っている。

池間島の受け入れ窓口となっているNPO法人いけま福祉支援センターの前泊博美理事長は「今回の体験学習のテーマは『命』。島

の人たちとの触れ合いを通して命の大切さ、尊さを学

んでほしい。子どもたちには今回の交流で池間島を丸ごと体感してほしい」と話した。
それぞれの学校による地域自慢では、池間小中学校側が糸満からハーリーが佐良浜を経由して伝わったことなどを紹介した。
その後、池間島宝探しウォーク(島内散策)がスタンプラリー形式で行われ、参加した糸満南小学校の児童たちは、指令書に書かれた場所を目指して島の人たちから情報を収集しながら地域の歴史や文化、自然を学んだ。
糸満南小の児童29人は、島内で民泊。子どもたちは日常の島の生活を楽しみながら、島で生活する人たちとの触れ合いを通して、命の大切さを学んだ。



池間島のビーチ清掃

シヤコ貝放流など楽しむ

糸満南小

離島交流事業で体験

池間島、城辺地区で行われている2011年度沖縄県離島体験交流促進事業の2日目となる16日、糸満南小学校の児童らが池間島のビーチクリーンやシヤコガイの放流を行った。池間島で民泊をしているのは5年3組の児童29人。訪れた海を美しくするとともに、初めて行うシヤコガイの放流に歓声を上げていた。

この日は午前9時ごろ、池間島のイキヅーヒダでビーチクリーンアップを実施。ペットボトルなどの漂着ごみを岩の間などから取り除いていた。また、薪を拾い、グループごとにかまどを制作した。

そのほか、ウミガメのたまご観察や定置網の魚を観察した。同日時ごろには海業センターの職員の説明を受けながらシヤコガイ300個を放流した。

また、午後からはサンゴ礁ガイドの会によるサンゴ礁レクチャー、イノシーの散策と観察などを笑顔で楽し

んでいた。参加した玉城竜くんはこれまでを振り返り「民泊はとも楽しかった。かまどを作るのも初めてだったけどうまくできた。貝を食べるのが楽しみ」と感想を語っていた。児童らはきょう島のおじい、おばあさんと交流後、離島式を実施し、全日程を終え帰路につく。

宮 古 新 報

2011年(平成23年)6月17日 金曜日

大きなマクブに歓声

糸満南小児童 池間島で定置網漁体験

糸満南小学校(伊元武志校長)5年生88人の宮古島体験学習2日目の16日、多彩な体験を通して命の大切さを体感した。このうち池間島の定置網漁の体験で



重さ約3kgあるマクブを持ち上げて喜ぶ南小の児童＝池間島

は、大物の魚が網に掛かり、歓声を上げていた。子供たちは「大きい魚」と3クラス88人は15日、2泊3日の日程で来島した。

29人が併置校の池間小中学校、30人が砂川小学校、29人が福嶺小学校の子どもたちと交流を深めている。この日の池間島では子どもたちは、定置網から外された袋網の縄を引いた。全員が力を合わせ、大物の魚が水面上に現れると歓声が沸き起こった。

津波古陸君は重さ約3kgあるマクブを持ち上げ「やった」と喜びの声を響かせていた。見守っていた教諭や関係者らは「さすが糸満海人の子ども」とたたえていた。津波古君の祖父と父は地元では海人として有名という。

市海業センターでは、種苗生産したヒレジャコの稚貝3000個を用意した。子どもたちは浅瀬の岩盤に金づちとのみを使って小さなくぼみを作り、稚貝を移植・放流した。子どもたちは「早く大きくなってね」と願った後、海に入って水しぶきを上げていた。

昼食後、ツマ干瀬と称するサンゴ礁で「サンゴ礁イノ1散策」体験。大潮で浮上した礁原で生き物を観察した。「宮古島サンゴ礁のガイドな私たち」の友利博一会長ら9人がボラントピアでサンゴや生き物の生態などを指導した。

友利会長は「糸満の子どもたちとあって、サンゴ礁や魚、ウニ、ナマコなどに関心が高い」と評価した。

引率教諭の上原勝さんは「池間島の人たちの協力のおかげで、今回のテーマである『命』が子どもたちに理解できた」と感謝していた。

夜はオカガニ観察会が開かれた。池間小中学校の児童生徒たちと一緒に、オカガニが波打ち際に産卵する生命のドラマを観察した。

県の沖縄離島体験交流促進事業の一環。今年度から3年計画で、県内の12離島8小学校で実施される。将来を担う児童生徒たちが、離島の重要性、特殊性と魅力に対する認識を深めるとともに、沖縄本島と離島との交流促進により、離島地域の活性化を図るのが目的。

有意義な思い出できた

糸満南小 5年生ら 別れ惜しみ離島式

県の2011年度沖縄離島体験交流促進事業で池間島を訪れていた糸満南小学校5年3組29人は17日午後、池間離島総合振興センターで離島式を行った。代表で

赤嶺綾夏さんは「オカガニ観察などで池間島の自然をいっぱい体験できた。迷惑をかけたと思うが、ここで学んだことを学校でも生かしていきたい」などと感謝。3日間、お世話になったおじやおばあちちとの別れを惜しみながら池間島を後にした。

同事業は、児童に離島の魅力や特殊性への認識を深めることで観光など離島地域の活性化につなげるとともに、核家族化の進展で懸念される人間関係の希薄化を解消し、豊かな人間性や社会性の形成につなげることなどがねらい。同小の5年生計88人が池間島や城辺地区で宮古の豊かな自然や歴史・文化に触れながら、地域の児童や高齢者との交流を楽しみ、離島の魅力に触れた。池間では、宮古島観光協会(豊見山健児会長)

とNPO法人いけま福祉支援センター(前泊博美代表)が連携して受け入れた。離島式では、前泊代表が

「日に日にたくましくなるみなさんから勇気と希望、元気をもらった。池間のおじい、おばあも120歳まで長生きすると思う」とあいさつ。同小の上原勝教諭が「本当に楽しく有意義な3日間だった」と感謝し、児童全員で「島人の宝」の合唱をお年寄りや地元住民たちにプレゼントした。



離島式で、「島人の宝」の合唱をプレゼントする児童たち。池間離島振興総合センター



コミュニティ!

ニュースが知りたい!

今週の注目ニュース

12月15日(木)

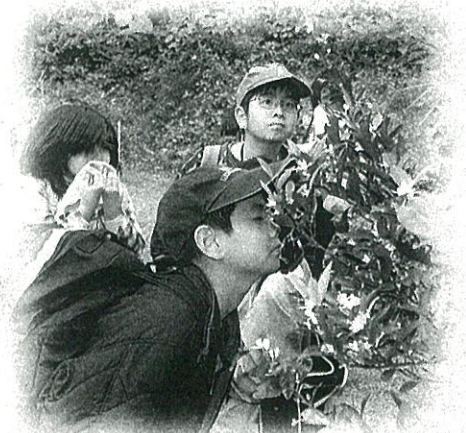
おんが年賀はがき受け付けスタート(国) お正月に心のこもった年賀きがとくと、うれしいね。友達り合いに新年のメッセージを送る

「好き！」から地域おこし

特産品や文化財、自然などの資源を生かして、自分が住む場所を元気にすることを「地域おこし」といいます。多くの人に感心を持ってもらうことがねらいですが、そのためにはそこに住む人の熱意が不可欠です。「大切なのは古里を好きになることです」と話すのは、地域おこしを手伝う会社「カルティベイト」(那覇市)のコーディネーター・安次富日奈子さん。「みんなで宝物を見つけませんか」と呼びかけます。

地域おこしに手やレジンジ!!

- 身近な宝物探してみよう
- 同じ目標の仲間をつくろう
- 魅力をだれかに伝えよう
- 無理せずに楽しもう
- 地域を好きになろう



名護市勝山シークワサー花香り祭り



東村つつじ祭り



南風原町のかぼつちヤマン

人と知恵 つなげて宝に

「地域おこしをやりたい」と思っても、何から始めたらいいのかわからないかもしれません。

まずは周囲を見回してみましよう。モノ、文化、自然…。たくさんの資源がありますが、当たり前すぎて「人」の存在に気がつかない場合があります。

例えば「漬物作りがとてまうまいおばあさん」や「貝がらや葉っぱで遊びを作ってしまうおじいさん」らを見つけて紹介することも地域資源の発掘です。

その地に暮らしてきた人の知恵やアイデア、工夫について「上等なものがたくさんあるよ」と周囲に伝える作業です。

自分の足もとを知り、自分の地域を好きになることがスタートです。

準備ができたら、具体的にどのような行動を起こせばいいのでしょうか。

気持ちを共有できる仲間が3人いるといいですね。もし自分ひとりだけなら時に落ち込むこともあるかもしれませんが、目標や夢を語ったりするとモチベーションも高まります。「エイトマン」のプロジェクトなら、メンバーが8人というのも面白いですね。

実際に動き出す場合は「何が目標なのか」という一本の柱を決めることが大事で



安次富日奈子さん

地域おこし

コーディネーター

すすめるうちに手法は変わるかもしれませんが、しっかりした方向性を持つことが大事です。

私は実際に離島に向かい、体験型プログラム作りの第一歩をお手伝いしています。地元の農協や漁協、社協やNPOなどと連携することで、さまざまな企画ができあがります。

「つながり不足」が地域の課題のひとつです。そのような中で、いろんな場所に出かけたり話し合ったり。子どもにとって、動きまわるとは得意分野かもしれません。「ゆん

たく」の中からひらめきが生まれることもあります。いいアイデアを見つけたら、近くの公民館、児童館など人が集まる場所に行き、大人に相談してみるといいですね。

名護市勝山区は「シークワサー」で知られていますが、「山と山羊とシークワサーだけ」から、「いい物がこんなにある」という発想の転換で、特産品が作られました。自分たちが「当たり前だ」と思っていた資源を活用しています。

今では冬の風物詩になった東村のつつじ祭りも、村民みんなが「地域が誇れるもの」という思いで作られられた事例です。

そこにしかない「ジョートー」子どもだからこそ見えるかも!



コミュニティ! うちなーぐちで読もう

比嘉光龍 訳



特産品、文化財、自然で一ぬ資源生かち、**どー** 胸ぬ暮らちよーる所 **どー** 元気なする事んかい、**どー** 「地域おこし」んでい言ちよーいびん。御真人んかい知らしみーる事どー目当ていやいびーしが、うぬ為なかえー、うんまんじ暮らちよーる人ぬ、念ぬありわるやいびん。**どー** 「大切なむのー、**どー** 胸ぬ生まり島好ちないしやいびん」でいち言しよー、地域おこし、手がねーする会社「カルティベイト」(那覇市)ぬコーディネーター・安次富日奈子さん。**どー** 「皆さーに宝物 尋めーてい見じゃびらに」んでい言ちよーいびん。

コミュニティ! 英語で読もう

ジェームス・ロス 訳



The effort to activate communities by using special products, cultural materials, and natural resources, is called "Community Revitalization." The aim of this effort is to gain the interest of many people. To make community revitalization successful, the enthusiasm of the people who live in the community is necessary. "Cultivate" is a company in Naha City which supports community revitalization. Hinako Ashitomi, a coordinator at the company, says, "The key to community revitalization is the love of the people towards their hometown." She also appeals to the public "How about rediscovering the treasures of your hometown?"

